



『まえだとし女 六百五十句』



まえだとし女

「保育園」
土あそびねんどと称して暖かし
摘草や幼稚園建つ丘の上
雛の日を我ら段には納まらず

入学期彼らは西の他校生
若草野早道として崖迂り
響せられうどん生地ふむ雪解晴
おもかげや春のスカーフ被り来る
春動く前行く人の朱き髪
休まずに開く余寒のカーネーション
営林署訪ひし話や桜餅
弥生空そろばん一式うけ取りに
エイザンとキリガミネとや堇草
そば店の外白菜の半乾き
茹でてみて菜の花無心につまみけり

『まえだとし女 六百五十句』

